12月の衛研検査情報
～トピックス～

横浜市区別標準化死亡比（SMR）

地域別に、死亡数を人口で除した通常の死亡率（粗死亡率）を比較すると、地域の年齢構成に差があるため、高齢者の多い地域では死亡率が高くなり、若年者の多い地域では低くなる傾向があります。このような年齢構成の異なる地域間で、死亡状況の比較ができるように考えられた指標として、標準化死亡比（Standardized mortality ratio：SMR）があります。

標準化死亡比は、基準集団の年齢階級別死亡率とその地域の人口から算出する期待死亡数と、その地域で実際に観察された死亡数の比を用いることで、その地域の死亡状況がどの程度かを推測する指標です。標準化死亡比を用いることで、年齢構成の異なる集団について、年齢構成の違いを気にすることなく、より正確に地域比較ができます。

主な結果　代表的な疾患について全国と比較した区ごとの標準化死亡比を算出し、ホームページに掲載しており、今回、その内容の一部をご紹介しました。

横浜市における自殺の現状（平成19年～23年）

日本の自殺者数は、平成10年に一挙に8,000人余り増加して3万人を越え、その後も高い水準が続いています。平成18年10月、国を挙げて自殺対策を総合的に推進することにより、自殺の防止を図り、あわせて自殺者の親族等に対する支援の充実を図るため、「自殺対策基本法」が施行されました。また、この法に基づき、平成19年6月には、政府が推進すべき自殺対策の指針として「自殺総合対策大綱」が策定され、平成24年8月には、見直しが行われました。

感染症・疫学情報課では、横浜市こころの健康相談センターを通じて神奈川県警より「横浜市における自殺者」のデータの提供を受け、5年間について解析しましたので、その概略を報告します。

主な結果　5年間の横浜市における総自殺者数の平均は、703人（男性：480人、女性：223人）でした。男女比は、2.2で、男性の自殺者が女性を大きく上回りました。

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所WEBページは、感染症情報や保健情報、薬事情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。検査情報月報では、アクセス件数をもとに、どのような情報に関心が寄せられているかを解説しています。

主な結果　平成24年10月は、マイコプラズマ肺炎、クロストリジウム-ディフィシル感染症、インフルエンザワクチンに関するページのアクセスが多くみられ、総件数は157,361件でした。

詳しくは横浜市衛生研究所ホームページを御覧ください
http://www.city.yokohama.lg.jp/kenko/eiken/inspection-inf/

横浜市衛生研究所では、所内で行われた試験検査等の結果に解説を加えて、毎月、「検査情報月報」として報告しています。

横浜市衛生研究所　感染症・疫学情報課